

研究開発領域 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

領域総括
山田 肇

2

研究開発領域の概要

- わが国で顕在化するドメスティックバイオレンス・児童虐待・孤独死などの高齢者問題・ネットいじめが原因の自殺といった事象はどのようにすれば減らすことができ、社会をより安全なものにできるのか
- 発見・介入しづらい「私的な空間・関係性」による事件や事故を低減・予防し、安全な暮らしを創生する研究開発を推進する

取り組みイメージ

| アウトプット | 研究開発プロジェクトのテーマ例 |
|---|--|
| ①社会システム・制度の創生と伝承 | <ul style="list-style-type: none"> 新しいプライバシー概念の提示と個人情報等の利用の拡張に関する研究開発 複数の関係公的機関での情報共有・連携を促進する法制度のあり方等の研究開発 ... |
| ②配慮が行き届き適切に介入・支援をする社会技術の創出 —公／私協力する「間」の創生— | <ul style="list-style-type: none"> 養育や介護に関わる支援（個人、NPO等）の充実に関する研究開発 児童虐待やDV等に関する市民教育や学校教育の充実に関する研究開発 ... |
| ③情報通信技術等の利活用による新たな支援機能の構築 | <ul style="list-style-type: none"> 過去事例のビッグデータ解析を用いた予防と早期対応のための研究開発 多様な関与者の情報連携・共有により予防と早期対応を実現するシステムの研究開発 ... |

期待する研究開発

- 横断的視点：さまざまな事象の背景や対処策にみられる共通の制度上の問題の研究開発
- 現実社会に適用できる成果：社会資本の適切な配分に配慮した、制度設計に資する、現場を対象にしたエビデンスの積み上げ
- 予防に着目した新しい「間」の仕組み：対象とする人々の援助希求行動にも配慮が行き届いた予防と低減に結び付く研究開発

横断的視点の強いプロジェクトの例

| | | |
|------|--|------|
| | “間” | |
| 公的空間 | <p>親密圏と公共圏の変容を踏まえた新しいプライバシー概念の提示と個人情報等の利用の拡張に関する研究開発</p> <p>養育や介護に関わる支援（個人、NPO等）の充実に 関する研究開発</p> | 私的空間 |

現場を対象にしたプロジェクトの例と留意点

| | | |
|------|--|------|
| | “間” | |
| 公的空間 | <p>コミュニティにおける多くの支援機関・家族・住民等の情報共有・連携システムに関する研究開発</p> <p>「全国展開」への知見が得られ、提言に結び付くこと</p> <ul style="list-style-type: none"> • 国による(全国規模の)制度見直しのきっかけになる • 同様の事情を抱える他地域でも適用できる方法を実現する | 私的空間 |

予防に着目したプロジェクトの例と留意点

| | | |
|-------------|--|-------------|
| <p>公的空間</p> | <p style="text-align: center;">“間”</p> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="color: red; font-weight: bold;">過去事例のビッグデータ解析を用いた予防と早期対応のための研究開発</p> </div> <p>過去事例における個人情報の扱いについて倫理審査を受け、成果の公表時にも留意すること</p> | <p>私的空間</p> |
|-------------|--|-------------|

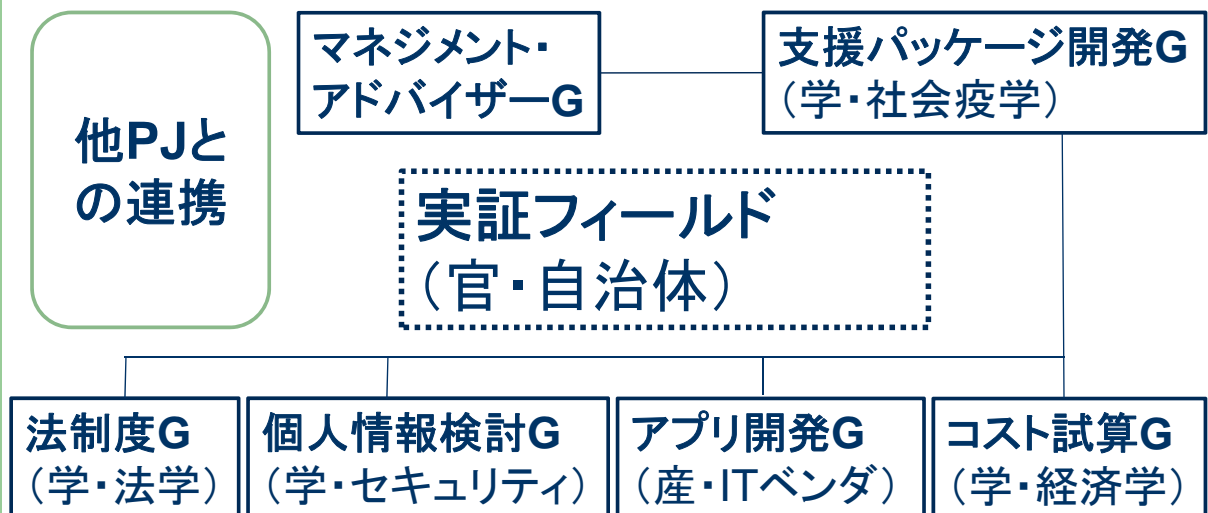
人権の保護と法令遵守

- 研究構想を実施するにあたって、
 - 相手方の同意・協力を必要とする研究
 - 個人情報の取り扱いの配慮を必要とする研究
 - 生命倫理・安全対策に対する取り組みを必要とする研究等
- 法令等に基づく手続きが必要な研究が含まれている場合には、研究機関内外の倫理委員会の承認を得る等必要な手続きを行うこと

求める提案

- 人文・社会科学、自然科学にわたる科学的知見を用いる研究開発
- 具体的な成果を社会に還元し、実装することを強く意識した研究開発。すなわち、学術研究ではないこと

プロジェクトの体制例



研究開発領域の目標

- 発見・介入しづらい空間・関係性における危害、事故の予防と低減に資する新たな手法を現実の問題とニーズに基づいて提示する
- これらの成果をもとに、発見・介入しづらい空間・関係性における危害や事故の予防と低減に資する制度・政策とその実現可能性を提示する
- 提示する取り組みや施策が継続的に実施されていくために、社会システムへの統合可能性という観点で、これらの手法を導いた思考・考え方を共有するネットワークを構築する

研究開発領域のアウトカム(最終目標)

- 私的な空間・関係性で起きる安全・安心上の問題の顕著な減少
 - 合理的な制度、社会資本の適正な配分に配慮した仕組みへの合意形成の契機となる
 - 公的なセクター間、公的セクターとNPO・支援者が連携し活動できる施策・仕組みができる
 - ビッグデータや各セクターに今まで埋もれていたデータが活用される
 - 一般の生活者の意識が変わる ……